

9) 令和6年度 研究発表等実績 (植物系)

令和6年度に当財団職員が発表した植物系の学術論文、書籍等、植物研究室職員による学会等での発表実績、および外部機関より受託した事業を紹介する。本年度は6報の論文を発表し、14題の学会等発表、14件の外部研究資金(5件は受託事業)を獲得した。なお、リスト中の当財団職員の名前は太字+下線で示した。

【学術論文】

1. Kenji Suetsugu, Jin Shinjo, **Koji Yonekura** and **Atsushi Abe**. 2024. A New Variety of *Zeuxine boninensis* (Orchidaceae) from Ishigaki Island, Ryukyu Islands, Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 75(3): 179-183.
2. Ayaka IREI, Kazuhiko TARORA, **Haruki SUNAGAWA**, Daisaku YAMASHITA, Tsubasa HESHIKI and Naoya URASKI. 2024. Genotyping of the Y2 Locus in the Yellow-Root Carrot, Shima-ninjin (*Daucus carota* subsp. *sativus*). *Tropical Agriculture and Development*. 68(3):49-54.
3. Kanae Michimoto, Masatsugu Yokota, **Atsushi Abe**, Shinji Fujii, Daiki Takahashi, Stoshi Kakishima, Chih Chieh Yu, Takuro Ito and Masayuki Maki. 2025. New Species of *Thalictrum* (Ranunculaceae) from Okinawa Island in Japan and Its Phylogenetic Implications, *Phytotaxa* <accepted 3 March 2025>
4. 前上門陽・田場聡・**佐藤裕之**・関根健太郎・諏訪竜一・西平守司. 2024. サクヤアカササゲ種苗腐敗病(新称)の発生とベノミルによる種子消毒および生物防除の有効性の検討. *土と微生物 (Soil Microorganisms)* 78(2): 78-87.
5. **辻本悟志**・亀山統一・久保駿太郎・山城 勝・高山新吾・吉元 充・川口エリ子・坂巻祥孝. 2024. ソテツに有害するカイガラムシ *Aulacaspis yasumatsui* の沖縄島への侵入実態とその薬剤防除上の課題. *樹木医学研究* 28(3): 147-151.
6. **辻本悟志**. 2024. アカギの異常落葉, 樹冠衰退を引き起こすヨコバイの侵入について. *樹木医学研究* 28(2): 77-78.

令和6年度 学会発表一覧

	発表学会等	開催日時	演題	要旨	発表者(※:筆頭演者)
1	日本菌学会68回大会	2024年5月17日	琉球列島のラン科植物の保全に向けた発芽誘導菌株の探索	琉球列島のラン科植物13種より菌根菌を単離し共生発芽を行い、発芽を誘導する菌と展葉まで促進する菌の特定について報告を行った。	※峯弓華・川元南緒・天野正晴・徳原直・辻田有紀
2	日本植物園協会第59回大会	2024年5月24日	宮古島におけるホソバフジボグサの野生復帰に向けた手法、時期の検討	ホソバフジボグサの自生地である宮古島では、市民等による生息域内保全が行われているが、現存する株は1個体のみであり、生息域内個体群の回復を図る必要がある。本研究では、生息域内外から得られた知見をもとに、野生復帰に係る手法、時期、場所の検討を行った。	※佐藤裕之・梅本巴菜・佐藤直子
3	四学会合同沖縄大会	2024年5月25日	フクギノコキウイムシの繁殖行動:ドラミングの発見	フクギの枝で交尾行動が観察されたフクギノコキウイムシの雌雄成虫について計25分間動画撮影を行い、雄成虫の行動が10パターンに分けられ、そのうち前脚を使って雌成虫をドラムのように叩く行動(ドラミング)が見られたことについて報告を行った。	※辻本悟志・亀山統一・辻本文香・梶村恒
4	20th International Botanical Congress	2024年7月21日	First comprehensive floristic survey using a belt transect method on Iriomote Island, Okinawa, southern Japan	世界自然遺産に登録された西表島の維管束植物相をより深く理解するため、ベルトトランセクト法とサンプリングによる定量的かつ包括的な調査及び多様性解析について報告を行った。	※Akiyo Naiki, Takenori Yamamoto, <u>Koji Yonekura</u> , Takuto Shitara, Hironori Toyama, Shuichiro Tagane, <u>Atsushi Abe</u> , Yui Kajita, Naoko Sashimura, Masaharu Amano, Ryo Furumoto
5	令和6年度亜熱帯森林・林業研究発表会	2024年8月30日	ギンネムの薬剤防除に関する調査	外来種ギンネムの防除を目的に、イマザピル木針剤を用いた薬剤効果試験を行い、薬剤効果が示されたことと、当剤の適用拡大が完了したことについて報告を行った。	※辻本悟志
6	令和6年度沖縄ブロック国土交通研究会	2024年9月4日	海洋博公園で発生する動植物性残渣から作製した有機堆肥がベチュニアの生育に及ぼす影響	海洋博公園から発生する剪定枝等および飼料残渣である魚粕から作製した有機堆肥について、ベチュニアの生育に及ぼす影響を市販の牛糞堆肥と比較した結果を報告した。	※松原智子・砂川春樹
7	日本植物学会第88回	2024年9月13日	トサカメオトランの海洋島進出に関与した菌根菌の解明	トサカメオトランの共生菌が汎世界的に分布することが、ラン科においてももっとも広域に分布する種のひとつのトサカメオトランの分布拡大をもたらした要因について報告を行った。	※光武早紀・前原良美・木下晃彦・川口大朗・向哲嗣・Marutani Mari・Fernandez Michael・阿部篤志・梶田忠・蘭光健人・遊川知久・辻田有紀
8	令和6年度亜熱帯緑化事例発表会	2024年9月13日	海洋博公園内から排出される動植物残渣で作成した有機堆肥による持続可能な植物管理	海洋博公園から発生する剪定枝等および飼料残渣である魚粕から作製した有機堆肥について、これまでに実施した栽培試験の結果および財団が主催するイベントでの普及啓発活動について報告した。	※松原智子
9	令和6年度園芸学会秋季大会	2024年11月4日	沖縄の伝統野菜である島ニンジン根色の根色関連遺伝子の解析	島ニンジンの根色のマーカーを作成し、幼苗の苗の段階から、黄色、橙、濃橙の根の色の違いを判別する技術開発をおこなった。	※伊礼彩夏・太郎良和彦・砂川春樹・山下大作・平敷翼・浦崎直也
10	樹木医学会第29回大会	2024年11月17日	フクギの枝と葉柄に穿孔するフクギノコキウイムシの発生消長と随伴菌の種構成	フクギノコキウイムシの発生消長と随伴菌の種構成を明らかにすることを目的に、枝と葉柄とフクギノコキウイムシの体表から菌を分離し、病原菌がほとんど分離されなかったことと、発生消長については、旬平均気温20℃以下が続くと捕獲数が少なかったこと等について報告した。	※辻本悟志・升屋勇人・遠藤力也・亀山統一・辻本文香・梶村恒
11	第56回種生物学会	2024年12月6日	アマミテンナンショウ3亜種の系統関係と亜種内の遺伝的分化	3亜種全てが絶滅危惧種とされるアマミテンナンショウ近縁種(オキナワテンナンショウ含む)について、保全に向けた自生地調査や遺伝解析を行った結果を報告する。	※柿嶋聡・大野順一・阿部篤志・奥山雄大

12	日本植物分類学会第24回大会	2025年3月9日	分子系統解析による日本とその周辺地域に分布するイネ科タケ亜科植物の多様性解明	有用植物でありながら、交雑を繰り返して属や種の境界に諸説のある日本産の竹14属90分類群およびアジア大陸固有の竹3分類群について、ddRAD-seq法を用いたゲノムワイド多型情報に基づいて系統解析を行った。	※支倉千賀子・富塚柚貴菜・三井裕樹・尾関未帆・郭 岑・渡邊誠太・名波 哲・岩崎貴也・池田 博・ 米倉浩司 ・T.K. Thapa・H.-T. Im
13	園芸学会令和7年度春季大会	2025年3月20日	沖縄県における在来ダイコンの系統間差	生産量が激減し消滅の危機に瀕している沖縄県在来系統のダイコン3系統について、主に地上部の形態における系統間の差異に関する報告を行う。	※ 松原智子 ・ 舘見里清香 ・ 砂川春樹
14	第136回日本森林学会大会	2025年3月22日	沖縄島におけるソテツシロカイガラムシの被害実態とその薬剤防除	沖縄島に侵入したソテツシロカイガラムシの被害実態と薬剤効果試験について報告を行う。	※ 辻本悟志 ・Benjamin Deloso・Ronald D. Cave・Thomas Marler・長田聖哉・坂巻祥孝・稲葉靖子・亀山統一